

2200日の物語 ～芝根の名のもとに～

第45話 (R04.03.16)

～ 6年生を送る会 その1 ～

延期となっていた6年生を送る会を実施しました。残念ながら、コロナウイルス感染症の予防する観点から、ライブによる実施はできませんでした。

事前に、各学年の劇、歌、ダンスなどを録画しました。6年生は、ホールで、視聴をしました。他学年の児童は、各教室で視聴しました。

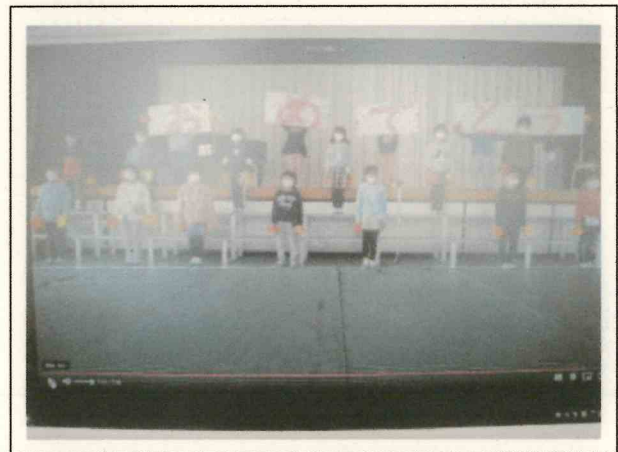
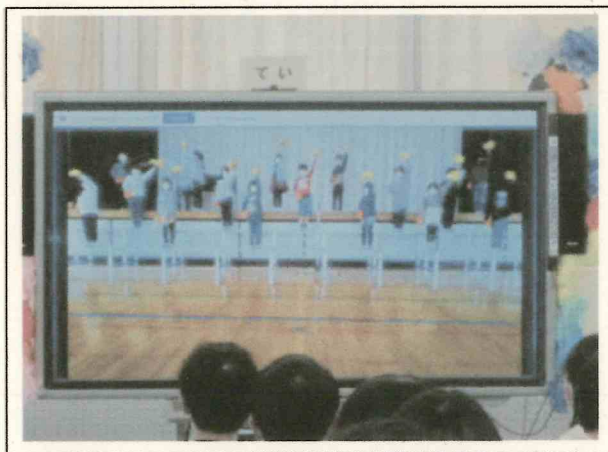
各学年の出し物は、それぞれ工夫があり、とても見応えのある作品でした。6年生は、笑ったり感動したりしていたと思います。

少ない時間の中、頑張った児童、作品作成で指導した先生方には、感謝の気持ちでいっぱいです。

【1年生】アレンジされた歌と言葉

○6年生の児童の名前を、歌詞にして、歌うシーンが印象的でした。特に、その歌を聴いている6年生は、少し照れた表情でしたが、とてもうれしかったと思います。

立派に発表した1年生に、大きな成長を感じました。



【2年生】落語劇「平林・皿屋敷」

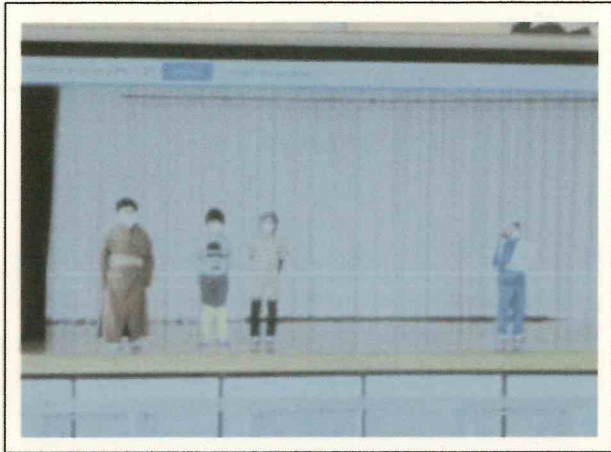
○定吉は、「平林（ひらばやし）」邸に手紙を届けるよう、店主から頼まれる。

定吉は、行き先を忘れないように口の中で「ヒラバヤシ、ヒラバヤシ」と繰り返しながら歩くが、結局忘れてしまう。定吉は思い出すため、手紙に書かれた宛先の「平林」という名前を読もうとするが、漢字が読めない。

通りがかった人に、「平林」の読み方をたずねることにする。「タイラバヤシ」、「ヒラリン」、「イチハチジュウノモクモク」、「ヒトツトヤツツデトッキッキ」など、いろいろ言われる。(前半「平林」のあらすじ)

○皿屋敷のことを知った若者は、怖い物見たさで屋敷に行く。皿の枚数が9枚になると死ぬと言われる。その晩もお菊が現れ6枚まで数えたときに皆が帰ろうとするが、お菊は続けて、18枚まで数える。若者が「なぜ、18枚までかぞえるんだ。」と聞く。

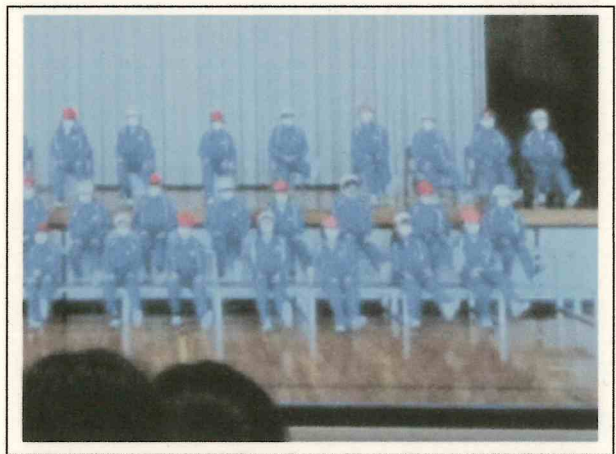
するとお菊は「今日は2日分数えて、明日は休むんだよ。」と答える。(後半「皿屋敷」のあらすじ)



【3年生】ラインダンス

○6年生に「中学校でも頑張って楽しく学校に行ってね」という気持ちと「今までありがとう」という気持ちでおどる。(3年生の意気込みより)

○ラインダンスを楽しくえがおでおどっていきたい。(3年生の意気込みより)



【4年生】フラッグダンス

○わたしは6年生の合そうが一番心に残りました。すごい楽器をつかってえんそうするなんて、すごいなあと思いました。この送る会を見て、各学年がすごいがんばっていることも伝わってきました。一番すごいなあと思ったのが1年生の声でした。1年生は、私たちより小さいのにすごい大きな声でびっくりしました。(児童の感想より)

